

						授業コード	4058		
授業科目	機能看護学演習 (看護情報演習) Management in Nursing (Nursing Information Practice)	責任教員	米増 直美	単位数	1	科目区分	必修	科目履修	否
				時間数	30	開講セメスター	4		
目的と目標	<p>情報は、個を対象にした看護過程においても、集団・コミュニティを対象とした看護においても重要な要素であり、その活用は、看護の質に大きく影響する。また、看護は人間とその生活に直接関わるので、人々が持っている個人情報の意味を理解し、看護活動を行う際には対象に与える影響を十分に考慮して情報を扱う必要がある。</p> <p>目的：保健・医療・福祉領域における情報と看護の関わりを理解し、看護専門職としてよい看護を目指し、意図的に情報を活用して看護をマネジメントする能力を育成する。</p> <p>目標：機能看護方法1（看護情報とマネジメント）の学修内容を基礎に演習を行い、情報を活用し看護をマネジメントする意義と方法を理解する。</p>								
回数	学修課題	内容並びに方法						担当教員	
1	I 導入 よい看護を支える看護情報	グループ演習を中心に行い、チームティーチングにより、学生の学びをサポートします。本科目の目的・目標、および進め方について説明する。機能看護方法1の学修を振り返る。 (講義・演習)						米増	
2・3	II 個人を対象とした情報活用 ・看護の目的と情報 ・情報収集とアセスメント ・看護情報と意思決定 ・看護援助のための情報活用 ・評価と情報	個人を対象とした情報活用を体験し、看護過程を情報に焦点を当てて点検する。 (事前課題) 事例をもとに、看護実践に向けて必要な情報とその根拠について整理するための学習を行う。 (演習)						古澤 安田	
4	III 集団を対象とした情報活用 1. 地区活動における情報活用 1) 地区診断と情報活用	地域を基盤とした看護における情報活用過程の特徴を理解する。 (講義・演習)						米増	
5	2) 地区活動における情報発信	地区診断で収集した情報を活用する方法について検討する。 (グループ演習①)						米増	
6	3) 地区活動における情報活用と評価	(グループ演習②・発表)						米増 吉川	
7	2. 質問紙調査を活用した看護活動 1) 集団を対象とした情報収集の意味	集団を対象とした情報収集の方法の一例として質問紙調査をあげ、看護目的に合った情報収集について学ぶ。 (講義)						小澤	
8	2) 質問紙作成と情報の収集・発信・評価	看護の目的に合った質問紙や調査方法、調査結果や情報の発信方法を検討し、倫理の視点を踏まえつつ看護専門職の立場から評価する。 (グループ演習③・発表)						小澤	
9	3. スクリーニングを活用した看護活動	スクリーニングの例を示し看護活動への活用について考える。 (講義・演習)						米増 吉川	
10	IV 情報の一元化と管理 1. チーム医療・地域連携における情報の一元化と共有①	チーム医療・地域連携における情報の共有について理解する。 (講義・演習)						長屋 太田	
11	チーム医療・地域連携における情報の一元化と共有②	施設内・外の情報共有の実際、電子化による情報の一元化の利点および問題点について理解する。 (講義・演習)							
12	2. 情報活用と倫理	一元化された情報の活用と管理を倫理的視点で点検する。 (グループ演習④・発表)						長屋 太田	
13	V 学習の統合①	これまでの学習を統合し、看護をマネジメントするための情報活用について考える。 (グループ演習⑤・発表)						米増 吉川	
14	学習の統合②	【課題レポート】看護専門職を目指す看護学生として利用者の情報を扱う責任について、自分の考えを整理する。						米増 橋本	
15	VI 総括	看護専門職としてよい看護を支える情報活用について総括する。 (演習)						小澤 米増 橋本 小澤	
評価方法	授業への参加・貢献（グループ演習などへの参加状況）30%、授業終了後のミニレポート30%、課題レポート40%の配分で評価する。								
参考文献と資料	金川克子・早川和生監訳. (2007). コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際(第2版). 医学書院. 薄井坦子. (1992). 何がなぜ看護の情報なのか. 日本看護協会出版会. 他、必要時授業にて提示								
事前準備	機能看護学概論、機能看護方法1を十分に復習しておくこと。学習内容に示したことは事前学習を要する。								
受講要件									